

平成29年度活動報告



森林での作業は楽しい！(第3回野幌森林づくり塾)

林野庁 北海道森林管理局
石狩地域森林ふれあい推進センター

当センターは、都市近郊の丘陵森林、豊富な森林資源と多様な森林景観に恵まれた山岳林等にある国有林を主たる活動のフィールドとしています。

札幌市内を流れる豊平川の上流・源流部の定山溪国有林は、水源林として重要な役割を果たしているほか、ボランティア団体等の活動の場や森林環境学習の場として利用がみられるなど、市民とのかかわりが深い地域になっています。この貴重な水源林を、国民の森林として次世代へ引き継いでいくため、「札幌水源の森づくり2017」を開催しました。また、森林調査・森林観察、生態系を学ぶ活動を小学校・中学校を含む地域参加型で行うなど、「地域のもりから学ぶ森林づくり」に取り組みました。

さらに、平成16年の台風により約77haに及び風倒被害を受けた野幌森林公園において、「100年前の原始性が感じられる自然林」を目指した森林づくり「野幌森林再生プロジェクト」として、市民の皆さんと協働・連携した「団体型森林づくり」、「みんなで森林づくり」、「野幌森林づくり塾」などを行いました。また、森林の回復状況を把握し、その内容を幅広く情報発信するため「野幌自然環境モニタリング」を継続実施しました。

そのほか、当センターの活動として、様々な民間団体等からの要請に応じ、講演や協力・助言などの支援活動を行ってきました。

札幌水源の森づくりの推進

市民参加型の「札幌水源の森林づくり」

「水源の森」である定山溪国有林は、札幌市民約190万人の生活を支える水道水の源として、おいしい水を育む重要な役割を果たしています。札幌市やボランティア団体等と連携し、多くの市民の皆さんの参加を得て、「札幌水源の森づくり2017」を開催し、この「水源の森」を貴重な財産として守り育て、次代へ引き継ぐこととしています。

H29.08.26（土）札幌市の中心部で市民参加によるポット苗木づくり

札幌市の中心部、創成川公園・狸二条広場を会場に札幌市と共同開催し、北方創森塾、平岡楡の会、N T Tタウンページ(株)、森林総研札幌水源林整備事務所、国土緑化推進機構、常松学園札幌工科専門学校、酪農学園大学等の協力をいただきました。市内外から400人余りの人々が訪れ、「水源の森」現地に植栽するため再生ダンボール紙でつくる「カミネッコ」(東三郎北大名誉教授の考案)を使用してトドマツ、ミズナラ、ヤチダモのポット苗木を作成しました。



暑い中たくさんの市民のみなさんがきてくれました



学生ボランティアによるサポート





外国人のご家族も興味津々です



H29.07.03 (月) 現地に植栽した水源の森の下刈作業

毎年、市民が作ったポット苗木は、定山溪国有林に植栽してきましたが、植栽後の手入れとして下刈作業を、石狩森林管理署と協定を結んでいる「北方創森塾」との連携により実施しました。



暑い中、下刈に汗を流す

H29.09.30 (土) 定山溪国有林内にポット苗木を植栽

今年、市民が作ったポット苗木を、定山溪の国有林に札幌市、北方創森塾、N T Tタウンページ(株)、N P Oシーズネット、森林総研札幌水源林整備事務所、酪農学園大学の学生の皆さんなど総勢53名で植栽しました。

また、作業終了後は、定山溪ダム管理支所のご案内で、ダム見学をさせていただきました。水源の恵みを実感しました。



ポット苗木の植栽



運搬が結構大変 m(_ _)m



みなさん、心地よい汗を流しました



作業終了後のダム見学



地域のもりから学ぶ森林づくり

定山溪国有林において地域に根ざした取り組みとして、「地域のもりから学ぶ森林づくり」を実施しました。「森林の生物多様性を学ぶ」をテーマに地元小・中学校を対象に実施した4回の森林教室及び地域住民やNPO団体等と連携し実施した「森づくり活動発表会」などを市民参加で行いました。

H29.05.11（木）第1回「森林教室」を開催

定山溪中学校の生徒が、スキー場跡の国有林で、カタクリ、エソエンゴサクなど植物の種類・数を調査しました。また、学校として啓発用看板を設置するなど、植生の保全活動にも取り組んでいます。

今年は、定山溪小学校の児童も参加し、中学生に教わりながら、楽しそうに花の数を数えていました。



小・中学校合同で環境保全活動

H29.07.13（木）第2回「森林教室」を開催



来年は私たちも夢の森で活動します

定山溪小学校の5・6年生を対象に定山溪中学校の活動地である国有林(夢の森)で、ポット苗による植樹を行いました。当日は、中学校1年生も指導に訪れてくれました。

湿度が高く、羽虫が異常に飛び回る悪条件の中ではありますが、最後の水やりまで一生懸命に作業を行っていました。



大きく育ちますように

H29.07.19（水）第3回「森林教室」を開催

定山溪中学校の生徒が、夢の森において、手作りの巣箱を設置しました。目当ての鳥の大きさを考えて穴の大きさを工夫しました。

そのあと、草刈り作業と樹名板の設置等夢の森の整備を行いました。



樹名板の取り付け



自分たちで作成した巣箱の設置

H29.09.22（金）第4回「森林教室」を開催



効果てき面の防護柵の設置

定山溪中学校で平成22年から、奥定山溪の森林で採取したタネから育てていたミズナラやエゾマツでポット苗木を作り、定山溪の森林へ植栽しています。

現地ではポット苗木に加え、生徒が養苗したコンテナ苗をディプルとスパードという植栽機器を使って植栽し、また、翌年以降の苗木育成のため天然に発生した稚樹の採取も行いました。

植栽木は、厳しい気象条件に加え、毎年、エゾシカによる食害やキツネによるイタズラがあるので、防護柵を設置しました。

H30.02.22（木）「森づくり活動発表会」を開催

定山溪小学校・中学校と森林整備活動を行っているNPO団体等との意見交換・交流を行うことにより、お互いの活動の活性化を推進するため開催しました。今年、札幌水源林事務所、札幌市自然の村からの活動の発表と定山溪中学校から自分たちの体験から発見したことや、学んだことについて発表がありました。

発表後は、全参加者で「もりを観察、学ぶ、育てる」をテーマにパネルディスカッションを行い、有意義な時間を過ごしました。



たくさんの方々の参加がありました



緊張しながらも・・・

「ゆめの森」にバット用の苗木を植える

平成29年8月31日、定山溪中学校は北海道ベースボールアカデミーに野球を学びにきている外国人との植樹を実施し、当センターがその活動支援を行いました。

野球を学びに来ている方々が植樹するということで、アオダモ、ヤチダモ、ハードメイプル等バットの材料になる樹種を選定し、全部で38本を国有林(夢の森)に植栽しました。



まっすぐに育て



植樹を通じて交流を深めました

野幌森林公園における野幌森林再生プロジェクトの展開

平成16年9月の台風18号で被害を受けた野幌の森林を、100年前の原始性が感じられる自然林に再生する「野幌森林再生プロジェクト」を平成17年度から実施しています。NPO等広く市民の皆さんの参加を呼びかけ、野幌の豊かな自然のすばらしさ、森林に関する理解の醸成や市民の皆さんとの協働による森林づくりに取り組んでいます。

団体型の森林づくり

被害を受けた人工林を自然林に再生するため、森林づくりの協定を締結したNPO、大学、企業等の団体が植栽をし、その後、保育、成長量調査等について継続的に取り組んでいます。当センターでは、団体の皆さんに対して下草刈りの方法等の技術指導や森林整備の支援をしています。

H29.06.30（金）、07.11（火）、団体の活動を支援

「団体型森林づくり」協定に基づき、植栽箇所の下刈などの保育作業、成長量調査などに取り組んでおり、センター職員が現地で技術指導などの支援を行いました。



北海道ボランティア協会の成長量調査



NPOシーズネットの下刈作業



野幌森クラブの下刈作業

H30.02.16（金）野幌森林再生活動連絡会

石狩森林管理署会議室において「団体型森林づくり」に参加している皆さんとオブザーバーとして空知総合振興局に参加をいただき、連絡会を開催しました。

連絡会では、各団体の平成29年度の活動状況を報告していただいた後、当センターから再生活動にあたっての留意点等を説明し、オブザーバーからの情報提供、続いて全体で意見交換を行いました。

意見交換では、森林づくりに係る情報提供、エゾシカ問題、ダニ対策等幅広い分野での様々な意見が出されました。



各団体からいろいろな意見が出されました



みんなで森林づくり

団体や個人等、市民の皆さん広く誰でも参加していただき、植栽を行った後、下刈の保育作業に取り組んでいます。

H29.06.21(水) 「みんなで森林づくり」

毎年、北海道博物館近くの国有林で実施しています。今年も「NPO法人北広島森林ボランティア・メイプル」の会長さんはじめ、会員の方の指導のもと、公募で募った市民のみなさんと下刈作業を行いました。

当日は、初夏を思わせる晴天のもと、防蜂網、防蜂手袋などハチ刺され対策を万全にして作業を行い、みなさん爽やかな汗をかいていました。



暑い中、防蜂網・手袋を着用して作業



みなさん、お疲れ様でした

野幌^{もり}森林づくり塾

森林づくりに関する知識の習得と森林づくり体験をしながら森林と人とのかかわり等についての理解を深め、将来的には自主的なボランティア活動の展開につながることを期待した森林づくり塾を3回開催しました。

H29.05.27(土) 第1回 野幌森林づくり塾

「野幌森林公園で林業の歴史と生物の多様性」をテーマに、日本林業技士会の西川滯二さんを講師に迎え開催しました。午前の講義では、開拓に伴う乱伐や山火事により荒廃してしまった森林がどのように再生してきたのかなどを解りやすく説明していただきました。午後は、雨の中、森林の中を歩きながら、林業試験場の歴史や植生全般についての説明があり、みなさん熱心に聴いていました。



西川滯二講師



熱心に聞き入る塾生



雨にも負けず・・・



樹木の成り立ちと土(テフラ)の関係の現地講義

H29.07.08 (土) 第2回 野幌森林づくり塾

「土と樹木の間関係を学ぼう」をテーマに、北海道大学総合博物館の春木雅寛さんを講師に迎え開催しました。公園内を散策しながら、森林の成り立ちやササ、稚幼樹、土などの関係を説明していただきました。その後、サンプルに土を採取し、汚れや腐葉物を取り除くため、根気よく土を洗浄し、残った粒子を顕微鏡で観察しました。火山ガラスを発見できたなど、新たな知識に触れることができました。



火山ガラス発見！



童心に戻って土を十分に洗浄する

H29.10.14 (土) 第3回 野幌森林づくり塾

実際の森林の中での枝払い作業を通じて、刃物の取り扱い方、安全で効率的な作業の仕方など森林づくりの基礎を学びました。筋肉痛になるような大変な作業ではありましたが、「林内がきれいになっていくことは快感だ」などの声が聞かれ、心地よい汗を流しました。その後、センター職員が講師になり、改めて森林・林業・ボランティア活動についての講義を行いました。



ノコギリの使い方をマスター



枯れた木も整理



林内がスッキリしてきました

外来種対策

H29.06.29（木）オオハンゴンソウ抜き取り作業

野幌森林公園には、特定外来植物のオオハンゴンソウが繁茂しており、北海道ボランティア・レンジャー協議会主催の抜き取り作業に参加しました。当センターは運搬車両、防蜂網などを提供し、一般参加者らとともに、防除作業に汗を流しました。



抜き取り作業



オオハンゴンソウ山盛りのトラック



根切り作業



切り取られた根

野幌自然環境モニタリング調査

野幌森林再生プロジェクトの大きな柱として、平成18年から、台風被害森林の回復状況を把握するために、学識経験者による「野幌自然環境モニタリング検討会」を設置しています。①森林植生、②歩行性甲虫、③菌類、④野生動物の4項目についてモニタリング調査を実施し、回復度の検証や野生動物の森林への影響について検討しています。



委員の方が現地で検討

H29.10.20（金）「野幌自然環境モニタリング検討会(現地)」

森林再生活動を行っている現地において、再生状況を把握した後、登満別駐車場ログハウスで今年度の調査状況や今後の課題について検討を行いました。今年はネズミの生息予備調査の報告もありました。



ネズミの標本

H30.02.09（金）「野幌自然環境モニタリング検討会(室内)」

平成29年度モニタリング調査の結果報告及び平成30年度モニタリング調査の進め方などについて検討を行いました。



モニタリング室内検討会

なお、野生動物相調査については、当センターで実施し、公園内の12箇所に6月、9月の各4週間、自動撮影カメラを設置し、撮影データを解析し、モニタリングに活用しています。



キツネ



エゾシカ



アライグマ



タヌキ



コテングコウモリ

森林環境教育の推進、試験研究機関・市民団体等への支援活動

当センターでは、森林教室などの企画のお手伝いや森林に関する講演会・勉強会の支援を行っています。また、自然観察会や森づくりなどのイベントの直接指導などに加え、各種試験研究機関との連携にも取り組んでいます。

小中学校などの森林教室への支援、各種支援活動

H29.06.15（木）、06.16（金）、06.26（月）、06.27（火）森林教室へ講師派遣

千歳市立泉沢小学校は石狩森林管理署と「遊々の森」協定を結び、「かがやきの森」で活動しています。

当センターは森林管理署に協力し、森林教室に講師を派遣して支援しています。今年は3年生の枝払い作業体験、4年生の測樹体験、5年生の森の探索、6年生のポット苗による植樹に協力しました。生徒の皆さんは、森林教室の体験を通じて、森林の役割や大切さについて学び、考える機会になっています。



慣れないながらも懸命に



木のてっぺんは少し離れば見える

H29.07.22（土）、フォレストスクール

森林に関する普及啓発の担い手となる人材育成のため「札幌市定山溪自然の村」が開講している「フォレストスクール」において、センター職員が講師となり、林業の基礎知識、樹木のメカニズム、森林植生等について講義を行いました。



森林・樹木のメカニズムの説明



林業の基礎知識の習得

H29.08.21（月）～08.25（金）インターンシップ対応

北海道森林管理局では、学生が森林管理局の実際の行政事務に接することにより、学習意欲を喚起し、高い職業意識を育成するとともに、国有林野事業及び林野行政に対する理解を深めてもらうことを目的としてインターンシップを実施しています。今年、札幌工科専門学校生2名の方を、当センターが5日間受け入れ、森林施業、動物調査、生産、治山・林道、森林ふれあい、森林保全等幅広い分野の業務を体験しました。あまり天候には恵まれませんでした、最後まで熱心に説明を聞いてくれました。



森林施業について



治山現場にて



樽前山から台風被害跡を確認



保護林の管理



初めて見た高性能林業機械



自動撮影による動物調査の解析

H29.06.05（月）、10.05（木）サルメンエビネ調査

野幌森林公園の国有林に生育している希少種のサルメンエビネは、生態については不明な部分が多いことから、平成22年から北海道立総合研究機構環境科学センター研究主幹の西川洋子さんが春の開花調査、秋の結実、葉の測定調査、研究を続けており、当センターは、その活動を支援・協力しています。



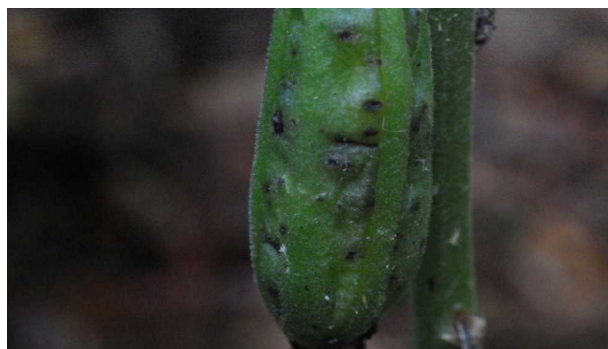
アカエゾマツの人工林内に生息



葉の長さや幅を計測



日当たりの良いところには群生



サルメンエビネの実

H29.05.09（火）森林植生勉強会の開催

現場森林官等が森林の植生についての知識を習得し、地域のNPO・教育関係者などを対象とした普及活動のためのガイド手法、地域ニーズに応じた支援活動能力を身につけることを目的とした森林植生勉強会を野幌国有林で開催しました。

昨年度に引き続きの実施ですが、今回は植生だけでなく各種ガイド業務に精通している野幌森林公園自然ふれあい交流館の濱本真琴さんを外部講師としてお招きしました。

当日は天候にも恵まれ、近隣の森林管理署の若手職員を主体に総勢18名の参加があり、参加者は日常の業務の中では発見できない森林のおもしろさを実感するだけでなく、一般市民目線での森林の見かたについても十分理解できたものと思われ、有意義な実施内容となりました。



引きつけられる講師の話



へびにも負けずに勉強

案内図



お問い合わせはこちらまで

林野庁 北海道森林管理局 石狩地域森林ふれあい推進センター
064-0809 札幌市中央区南9条西23丁目1番10号
TEL 011-533-6741 FAX 011-533-6743
ホームページ http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/isikari_fc/
E-mail h_ishikari_f@maff.go.jp